

前回審査会（平成29年2月1日）における指摘事項及び事業者の見解

番号	指 摘 事 項	事 業 者 の 見 解						
1	当該地域の各季節の風況を踏まえ、施設の稼働に伴う騒音の調査地点を選定したのか。	<p>施設の稼働に伴う騒音の調査地点については、対象事業実施区域周辺における住居等保全対象施設の立地状況を踏まえ、風力発電施設との距離等を勘案し代表できる地点を設定しています。</p> <p>なお、音は距離によって減衰しますが、距離減衰に比較して風況による伝搬の影響は小さいとされています。本事業の場合、調査地点の選定において風況も考慮はしておりますが、対象事業実施区域との距離は、調査地点として選定した西側住居等に比べ、卓越風向風下となる南東側住居までは3倍以上あったため、本方法書では西側住居等の地点のみ選定しております。</p>						
2	A案、B案、C案ごとに想定している年間の発電電力量や、CO ₂ の削減効果はどれぐらいか。	<p>A案、B案、C案ごとの年間発電量及びCO₂削減効果は、方法書に記載の総発電出力（下表）に概ね比例するものと考えております。具体的な数値につきましては今後の検討の中で精査をしてまいります。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">A案</th> <th style="width: 33%;">B案</th> <th style="width: 33%;">C案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">24,000～25,200kW</td> <td style="text-align: center;">23,800kW</td> <td style="text-align: center;">25,000～26,000kW</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考までに、近隣の田原リサイクルセンター風力発電所（発電出力1,980kW）の運転実績では、年間発電量は4,361MWh（平成27年度、田原市ホームページより）となっており、ここから年間CO₂削減効果は2,119トン（CO₂換算、平成27年度 中部電力(株) CO₂排出原単位0.486kg-CO₂/kWhを使用）と推計できます。</p>	A案	B案	C案	24,000～25,200kW	23,800kW	25,000～26,000kW
A案	B案	C案						
24,000～25,200kW	23,800kW	25,000～26,000kW						
3	沈砂池は風力発電機1機ごとに設置するのか。	沈砂池の設置場所は、風車の配置位置及び排水放流口の位置を踏まえて今後決定いたしますが、基本的には、風力発電機ごとの設置を考えております。						
4	<p>水質の調査地点（方法書523ページ）及び魚類の調査地点（同547ページ）について、どのような考え方により設定したのか。</p> <p>また、工事中の排水地点が3地点（同20ページ）であることから、それら3地点を調査地点とすべきではないか。</p>	<p>水質の調査地点は、雨水の排水地点がある水路に設定しており、魚類の調査地点は、その水路の上流側及び下流側に加え、対象事業実施区域内の池にも設定しています。</p> <p>また、工事中は排水中の浮遊物質量が十分小さくなるように沈砂池の容量を設定すること、海域は水路等と比較して流入する水がすぐに拡散することから、海域への影響は極めて小さいと考えています。そのため、海域には調査地点を設定しませんでした。沈砂池から流れ出る水の浮遊物質量を計算した結果、万が一海域への影響が生じる可能性があるかと判断された場合には、海域の浮遊物質量の計算や魚類の調査地点を追加する等適切に対応します。</p>						